

折れたバットを箸に加工
売り上げの一部はアオダモの植林活動に

野球の木製バットの素材は、日本中に分布している落葉高木のアオダモが多く、中でも、寒冷な気候で硬く年輪が詰まった北海道産が最良とされています。しかし、60〜70年ほどかけて育った成木から作れるバットは、わずか4〜5本。バットにはプロアマ含めて、1年間で20万本以上の需要がある一方、北海道のアオダモは減少傾向にあり、原料不足が心配されていました。そこで、野球関係者らが2000年から北海道日高地方で植林を開始し、2002年にはNPO法人「アオダモ資源育成の会」へと活動の輪を広げました。

この活動に、同じく「木の文化」を守る立場にある福井県の老舗箸メーカーが、関心を持ちました。そして、年間数万本の折れた木製バットが廃棄物として焼却されている事実も知り、折れたバットを生かした箸作りを思いつきました。試作で木製バットが箸に適する素材であることは確認できましたが、不規則に折れ、手元から先端まで太さが変化するバットから板を切り出す作業は困難で、試行錯誤を重ねました。

2002年には、持ち手部分をバットの形に加工し、グリップから下の部分には黒漆を塗った堅牢な箸が完成。さらに、プロ野球12球団のロゴを箸にプリントしました。「かっとばし!!」と名付けた製品は、2003年3月に発売以来、多くの野球ファンを喜ばせています。

この木製バットのリサイクルに賛同したプロアマ野球チームから、毎年2万〜2万5,000本もの折れたバットが箸メーカーに寄せられています。箸の売り上げの一部は、地元の少年野球チームなども参加する北海道でのアオダモ植林活動に寄付され、これまでに1万4,000本を超えるアオダモの木が、大地に新たな根を張っています。



北海道日高地方でのアオダモの植樹風景



製品化された「かっとばし!!」

取材協力：株式会社 兵左衛門 http://www.hyozaemon.co.jp/